

幼稚園研究部 2学期のまとめ

本園では教育重点をもとに、よりよい教育を目指して実践研究を行っています。

今年度は、次の4つをテーマに実践をしています。

- ①創造的な子供の姿と教師の援助 ～年齢発達とのかかわりを探る～
- ②教師の質の向上を目指した会議や園内研修
- ③幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿
- ④子供たち同士が理解し合うための教師の支援

実践研究には、教職員全員が全てのテーマにかかわりますが、取りまとめを担当する学年毎に取り組みの内容をご紹介します。

①年中研究部では、年齢発達にかかわる創造性の育ちについてまとめるために、収集したエピソードの中で、廃品素材を使った造形活動に焦点をあて考察をしました。その内容については「先生たちの発表会」にてエピソードを交えて丁寧にお話いたします。

教師は、創造性を育むためには、発信ばかりでなく、創造性の芽となることを受信していく感度、それを見守る姿勢が大事であると感じました。



創造的な子供の姿～積み木遊びから～



園まつりを迎える前に素材研修

②年少研究部では、教育の質の向上に欠かせない園内研修についてまとめています。

各学年、園全体、講師を招いた研修、外部研修など様々な研修の記録をもとにして、テーマ、内容に合わせた研修の有効な方法について探りました。教育情報の共有、子供の多様な成長の視点の獲得など、よりよい教育を行うために、今も積極的に研修を重ねています。

②年長研究部では、実践を通して“10の姿”についての理解を深め、また子供の育ちを捉える視点の一つとして意識していけるよう、取り組んできました。

今学期は、研修資料を用いて、10の姿の視点から子供の育ちの捉え方を学んだり、実際に日々の写真やドキュメントシートを使用し、そのエピソードから見えてくる子供の育ちを10の姿の視点から捉えていく研修を行ったりしてきました。その結果、一つの遊びや、一つの活動から多様な子供の学びや育ちがあること、また、年齢によって私たちが大切にしたい育ちがあるということなどがわかりました。10の姿を育ちの視点として意識していくことで、保育者自身の視点が多様に広がり、幼児理解をすることにつながっていきます。また、日々の保育を振り返り、翌日の環境を構成する上でも、その視点をもつことが有効であることがわかりました。

保護者の方には、“10の姿について”や、具体的なエピソードから捉えた子供の10の育ちの姿などをご紹介します予定です。



エピソードから10の姿を捉える研修

④自閉症児研究部では、一学期から継続してドキュメントシートの形式で記述してきた交流の支援を、学園祭の際に、なかよしルームに展示をしました。その後はドキュメントシートを振り返りながら、学年ごとに行っている支援について、付箋を用いて意見を出し合いました。すると、やはり学年によって教師の支援が異なっていることが見えてきました。

「先生たちの発表会」では、実際に記述してきた交流のエピソードと、学年ごとの支援の違いについてお伝えします。



先生たちの発表会に向けて準備をしています